VPTA｜結果と条件を整理する

標準高次視知覚検査 Clinical record / 01

氏名・ID：_____ 評価者：_____

開始日：____年____月____日 終了日：____年____月____日

1 実施条件をそろえる

確認する条件	記録
視覚入力	眼鏡： 視力・視野： 眼球運動：
提示環境	照明・反射： 図版との距離・姿勢：
理解と反応	教示理解： 呼称・指差し・操作の可否：
状態・日程	覚醒・疲労： 休憩／分割：
検査範囲	使用した正規資料・版： 実施領域：

時間の計画：全体で1時間半強が目安。疲労等に応じて分割し、開始から終了までは原則2週間以内を目安に計画する。選択実施は範囲と理由を記録する。

2 7領域の結果を見渡す

正式な項目得点は正規記録用紙・プロフィールに記載し、ここには特徴を要約します。

領域	実施／未実施・代表的反応・困難な条件
視知覚の基本機能	
物体・画像認知	
相貌認知	
色彩認知	
シンボル認知	
視空間の認知と操作	
地誌的見当識	

採点の方向：基本は正答0、遅延反応1、誤答・無反応2。項目ごとの例外や時間基準はマニュアルに従います。高得点を良好と読まず、未実施を0点にしません。

正規資料・プロフィール：日本高次脳機能学会 VPTA案内

VPTA｜反応の違いを残す

標準条件と、検査後の追加観察を分けて記録 Clinical record / 02

3 標準条件での反応記録

項目名・刺激番号、本人の反応、時間、正式基準による採点を記録。答えや探索位置のヒントを加える前の反応を残します。

項目・番号	反応・所要時間	得点／判定不能の理由

4 検査後の追加比較

目的に応じて条件を一つずつ変えます。標準得点へ混ぜず、正答の提示・練習による影響も記録します。

対象・確認したいこと	元の条件／反応	変更条件／反応

比較の例：視覚のみ／触覚のみ、単独／複数、呼称／用途説明、顔／声。触覚比較は物を見せない条件で行い、感覚障害も確認します。

5 解釈の根拠と、残る確認事項

使えた手がかり	
困難の仮説	
併せて確認	視力・視野／失語／注意／半側空間無視／記憶／その他：

VPTA｜生活への橋渡し

実際の行動で支援を確かめる Clinical record / 03

6 生活場面で、小さく試す

対象場面	洗面・更衣・食事・移動・対人場面・その他：
変更前	物の数・配置／誤り／所要時間／促し：
支援を一つ選ぶ	背景を整理・提示数を減らす・使える文字／声／触覚・目印：
変更後	正しく選べた回数：　／時間：　促し：
次回の確認	未練習の物・異なる場所・促しを減らす等：

7 カルテ・申し送り

架空例：単独の歯ブラシは用途まで説明可能。複数物品が重なると選択が止まる。洗面台に必要物2点のみ提示すると自力選択できた。次回は提示数を1点増やし、選択時間・取り違え・促し回数を比較する。

観察した事実	
解釈・確認が必要な点	
支援とその反応	
次回の条件・目標	

資料・使い方

この用紙は7領域の要約と臨床観察の記録用です。正式な図版・全項目の採点票は正規資料をご使用ください。

1. 日本高次脳機能学会：標準高次視知覚検査（VPTA）
https://www.higherbrain.or.jp/publication/test/vpta/
2. 新興医学出版社：VPTA案内（所要時間・分割実施）
https://shinkoh-igaku.jp/cgi-bin/order_inspection/vpta/ordermail.cgi
3. 鈴木匡子．失認．神経心理学．2025;41:54–61.
4. Gobbo S, et al. Restor Neurol Neurosci. 2022;40:217–240. doi:10.3233/RNN-211234

評価名・領域構成は原資料に基づき、記録欄をSTROKE LABで編集。実施・採点の詳細は原資料をご確認ください。